

日本小児救急医学会会員みなさまへ

熊本地震から早くも半年以上経過した、その後、鳥取地震、福島沖地震と大規模な地震が相次いで起こっている。たまたま、後者 2 地域では大災害になっていないものの、いつどこで大災害が起こるか、判らない状況・時代になっていると言える。

このような暗澹たる現状の中、熊本県（県知事）から、学会宛に感謝状が届いた。いち早く、当学会災害医療委員会委員長の斉藤修先生と井上信明先生、西山和孝先生が先遣隊として熊本に駆けつけ、現場のニーズを探り、かつ初期診療をも行いつつ、熊本の小児科の先生方、行政等での小児災害医療の連絡協議会を設立して、その後の小児医療のあり方への道筋を付けたことが多いに評価されたことの現れだろう。

21 世紀は「災害時代」と言ってもいいのかもしれないが、その中で、小児災害医療の先駆者として、被災地の子ども達を護ることを最大課題として、本学会が、災害医療委員会を窓口として、気概を持ってその任に当たることはわが国の子供達に不幸な二次被災を予防するという観点からも極めて重要である。

このことを肝に銘じて、学会活動の大きな柱として、これからの小児災害医療のあり方を模索し、より良い災害医療の提供を率先して行って行く学会にして行きたいと願っています。

是非とも会員一人一人がその気概をもって、自分にできることからやって行けば、と期待しているところです。

平成 28 年 11 月 26 日

日本小児救急医学会
理事長 市川光太郎